



1年1組による JA めぐみの、そば処山久のフィールドワークの報告をします

食を通じてインバウンドを呼び込む「岐阜空レストラン」を提案します

・農業体験のメリットとは

・外国人に喜ばれるツアーとは



・農業体験のメリット

訪問先：JA めぐみの（8月13日訪問）（関市小屋名）

訪問者：石原伶緒、榎本珠季、坂田瞬、澤奈都、杉山凜、森壮一郎

岐阜県には豊かな自然から生み出されるおいしい農作物がたくさんあります。そこで私たちはその農作物を使った和食で人を呼び込もうと考えました。

農業体験について知るために、JA めぐみのへ伺いました。

JA は農業体験ツアーを企画されていて、大変好評だということでした。農業体験とは、農場にいて農作物を収穫したり、収穫したものを自分たちで料理したりすることです。実際に収穫、料理をすることは日常ではなかなか体験できません。「自分で収穫して、料理もいつもよりおいしく感じた」、「料理も楽しかった。家でもやってみたい」、ツアーに参加された方はこんな感想を持たれるのだそうです。私たちはこのことを知り、外国人向けに農業体験ツアーを企画しようと考えました。

・外国人に喜ばれるツアー

訪問先：そば処山久（1月12日訪問）（関市西町）

訪問者：石原伶緒、榎本珠季、坂田瞬、澤奈都、杉山凜

しかし、JA が行っている農業体験ツアーは日本人向けの内容であり、そのまま外国人向けに提供するには課題があります。そこで、実際に外国人向けに料理教室を行っている、そば処山久に伺いました。山久のオーナーの小瀬木さんは高い英語力を生かし、料理教室だけでなく観光案内などのガイドもされています。外国人の要望に沿ったきめ細やかなサービスをすることが大切だとわかりました。そこで私たちは、収穫体験をするだけでなく、収穫した農作物を地元の方と料理することをツアーに取り入れました。

地元の野菜を実際に収穫し、それを使って和食を作り、食べる。これが、私たちが提案する「岐阜

空レストラン」です。

1年1組2班による 美濃和紙の里会館 フィールドワークの報告をします

◇美濃和紙の里会館を訪問、伝統の美濃和紙について学びました！

日時:2018年8月10日(金) 13:30~15:00

訪問先:美濃和紙の里会館(美濃市)

内容:美濃和紙作りと美濃和紙の作品の鑑賞

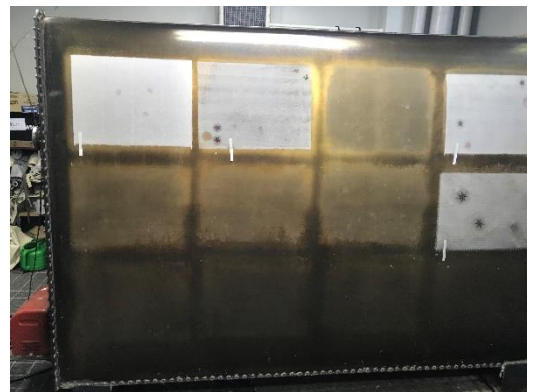
参加者: 吉川奎騎 嶋口隼人 田脇菜乃 幸谷聖奈

◇ 美濃和紙の里会館でのフィールドワーク

美濃和紙の里会館には、和紙で作られた作品がたくさんありました。とても親切に館員の人が対応してくださいました。

まず、和紙作りの体験をしました。作業場には、和紙の原料の植物であるコウゾが入った液体がありました。最初に係員の指示に従って和紙に乗せる型紙を選びました。約100枚ほどの型紙があり、世界に1枚だけの和紙を作ることができます。次にコウゾの入った液体を掬って縦に揺らしたり横に揺らしたりして紙を作っていました。そして自分が選んだ型を紙に乗せ、模様をつけるためにその上から水をかけました。その後、乾燥させたら完成です。

次に、展示の見学をしました。美濃和紙で作られた乗り物や動物の模型が展示してあり、それらが簡単に作れるキットも販売されていて、お土産にも良いと思いました。ですが、もっとも記憶に残った展示は、和風と洋風、2つの形式のモデルルームです。日常生活での美濃和紙の活用法について気になっていましたが、クッションやソファーなど多様なところに使われており、感動しました。



◇ 私たちの感想

美濃和紙の里会館でのフィールドワークでは、今まで知らなかった和紙の魅力に触れ、楽しむことができました。とても和紙とは思えないような作品もあり、和紙はいろいろなことができるのだとわかりました。美濃和紙作りの体験もとても簡単で、館員の人が丁寧に教えてくださるので、外国人観光客の方も安心して楽しんで体験ができると思いました。この美濃和紙の魅力を世界中に広げ、多くの外国人観光客を岐阜や美濃に呼び込めるようにしていきたいです。

1年1組3班による 鵜飼 フィールドワークの報告をします

◇ 鮎之瀬の里を、訪問し、鵜飼について知りました！

日時：2018年8月4日(土) 13:00～14:30

訪問先：鮎之瀬の里(関市小瀬)

内容：鵜飼の歴史や観光客について

参加者：川嶋駿介, 中島太陽, 西部岬 藤田愛唯, 山田菜月, 岩井萌々子, 長田萌

◇ 鵜飼とはどういうものか？ ～鵜飼の歴史と現状～



鵜飼とは、1300年以上続く岐阜の伝統的な漁法である。

国の重要無形民俗文化財に指定されており、世界に誇れる文化だ。

小瀬鵜飼は、日本での知名度は割と高く年間約 8700 人が訪れるが、海外での知名度はかなり低く、

年間に観光に訪れる外国人観光客は約 100 人しか訪れていない。そのため外国人観光客を増やすために、英語のパンフレットを作ったり、外国人に合わせた船を作ったり、地元の高校生が通訳のボランティアを行ったりしている。しかしまだ課題や改善点が多くみられた。交通の便が悪いことや周りに宿が少ないことがあげられる。

◇ 私たちの感想 ～話を聞いて感じたこと～

私たちは鵜飼を海外の人にも知ってもらい訪れてもらえるような鵜飼をメインとしたツアーを計画しています。このフィールドワークはそのメインである鵜飼についてより知るために行いました。そこで働く方々からたくさん話を聞く中で、伝統を守りたいという意志を感じ、また伝統を守ることの大変さを知りました。

その話を聞いたことで私たちは、少しでも鵜飼の知名度を広げる協力ができないなと感じたので、私たちの考える計画をより良いものにするためにたくさんの工夫をしていきたいと思いました。

写真 本物の鵜飼と出会う場所 より

1年1組による関市役所フィールドワークの報告をします

関市役所を訪問、関の祭りについて学びました！

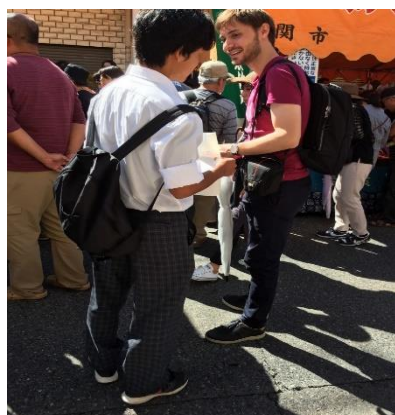
日時：2018年8月15日（水）10:00～12:00 10月6日,7日（土,日）9:00～15:00

訪問先：関市役所、刃物祭り

内容：関市役所への訪問、刃物祭りでパンフレット配り

参加者：森隼人、渡部紀良、松田真歩、片桐侑華、杉浦光星

関市役所への訪問、インバウンドを呼び込む工夫



僕たちは関市役所を訪問しました。現在の関の祭りで外国人観光客が来てくれるのは刃物祭りくらいだと聞きました。そのため、関市役所観光課では関市に来る外国人観光客を増やすために、外国に関市の特産品である刃物をアピールしています。毎年日本周辺の国をターゲットにして、直接刃物のアピールをしに行ったり、販売をしたりしているという話を聞きました。近年でのターゲットとしているのは東アジアで主に台湾です。外国人が観光しやすい環境を作ることによって、インバウンドを少しでも増やせるように僕たちの班は、英語版パンフレットの作成、配布に取り組みました。昨年もこの取り組みをした班がありましたが、英語表記しかなかったので日本語と英語どちらとも表記してよりわかりやすいパンフレットを作成しました。刃物祭り当日の2日間パンフレット配布を行いました。

関市役所での話、刃物祭りで活動した感想

私たちは、関刃物祭りに外国人観光客が増加することを目標として活動しています。刃物祭りの運営をしている関市役所観光課にお話を聞けて、どのような狙いをもって毎年活動しているのか聞くことができました。また、刃物祭り当日は、長良川鉄道の車両が増えていたことなどもあり、実際に刃物祭りに行ってみると多くの外国人観光客がいました。訪れていた外国人観光客に話を聞いてみると、毎年来ている方が多くいて驚きました。

1年1組による料理旅館いずみ荘でのフィールドワークの報告をします。

外国人観光客の特徴について学びました！！

日時:2018年8月7日(木) 13:00~14:00

訪問先:料理旅館いずみ荘(美濃市安毛)

内容:外国人観光客と宿泊施設の関係、外国人が興味のあることについて

参加者:和田大輝 下村稜 村瀬陽介 尾関なごみ 森にこり 山田桃々華

言語の違う外国人。宿泊施設での問題は？そして今やっていること。

私たちは、フィールドワーク先で外国人の方との関わりの中での問題について聞いてきました。そこで言語の違いは、日本人がもてなす心を持つことで乗り越えることができるということ学びました。

また岐阜県観光組合のパンフレットを見せていただきました。観光客として来日する外国人の方はもちろん今の日本に興味がありますが、昔の生活習慣や自然、例えば田んぼなどにも興味があるそうです。

そして今、観光組合の方が行っていることも聞いてきました。台湾などのアジアからツアーで来る観光客が多らしく、より多くの観光客が岐阜県に来たいと思ってもらえるように直接台湾に行き旅行会社と交渉をしているそうです。



フィールドワーク先いずみ荘(HPより)

観光客を呼び込むためには？

フィールドワーク先で、自分たちで観光の目的となるような場所を見つけたり、岐阜県らしさのある企画を考えたりするとよいと助言をいただきました。

そこで私たちは、全国2位の森林面積を誇る自然、その自然の中に生息している蛍、全国でも希少なうだつの町並み、この3要素を組み合わせ、「わ〜とねいちゃ〜」を考えました。



1年1組6班による関ヶ原ウォーランドフィールドワークの報告をします

関ヶ原ウォーランドを含む関ヶ原町内を見学し、観光地としての関ヶ原を考えました。

日時:2018年8月16日

訪問先:関ヶ原ウォーランド・石田三成陣営跡地(不破郡関ヶ原町)

内容:甲冑体験・資料館の見学

参加者:杉本欣紀 矢島諒也 伊藤諒哉 長谷部有咲 赤羽葉那 小林未紗

☆甲冑体験 in 関ヶ原ウォーランド



私たちは、観光地としての関ヶ原について知るために、関ヶ原ウォーランドを訪問しました。外国人の方は、日本の伝統や戦国時代などに興味がある人が多いと考え、それらを実際に体験できる施設として、このような施設へ赴きました。館長に関ヶ原の合戦についての話を伺ったり、当時の合戦の様子を再現した敷地内を見学したりすることで、実際に天下分け目の大合戦に参戦しているような気分になり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

また甲冑体験では、重みのある鎧を身に着け刀のレプリカを脇に携え、ウォーランド施設内を散策し、歴戦の武将たちと写真を撮りました。

☆感想

関ヶ原ウォーランドは、甲冑体験や施設の見学を通して、「見る」、「聞く」、「体験する」という三つの要素があり、気軽に楽しめる場所だと思いました。日本の「サムライ」になれるこの施設は、外国人観光客にも喜んでもらえそうだという印象を受けました。